

# 野球記録あら？カルト Vol.3

## <No.21 ラストイニングビハインド 2 点差以内からの抵抗 (2004 年セントラル・リーグ)>

2004 年セントラル・リーグの『ラストイニングビハインド 2 点差以内からの抵抗』を見てみたいと思う。パ・リーグの逆転or同点になる確率は 20.7%であった。セ・リーグは 20.0%とほぼ同じ割合で『逆転 or 同点劇』があったといえる。

大きな違いはその内容であろうか。パ・リーグが打線をつなげて得点するのに比べ、セ・リーグは本塁打による得点が多い。打率面においてパの打率が.250 に対しセは.226、本塁打はパの 12 本(42.6 打数に 1 本)に対しセは 23 本(26.7 打数に 1 本)と数の上ではほぼ倍であることから推察できる。

さて、セの 6 球団を見てみると、優勝した中日が『逆転or同点』にした数および確率がリーグ最下位というのは驚きだ。チーム全体の打率が.190、本塁打もリーグ最低の 2 本では反抗もできないのは当然である。

もともと『逆転or同点』が多かったのはヤクルト。打率はリーグ 2 位の.270 であったが本塁打ではリーグ 1 位の 7 本塁打を記録し、僅差試合での粘り強さを発揮した。

個人打率では、ベストは打率.400 以上、ワーストは打率.100 以下の選手を表にしてみた。セは打つ選手打たない選手がはっきりとしている。まあ元々全体の打率が低いので打率の低いのはしょうがないですかね。

[記録は 2004 年末現在]

球団別ラストイニング 2 点差以内で迎えた時の成績

球団	機会	逆転or同点	%	打数	安打	本点	犠打	犠飛	四死	三振	併殺	打率	
中日	26	4	15.40%	86	17	2	10	2	0	9	15	2	.198
ヤクルト	25	8	32.00%	100	27	7	15	1	0	15	27	0	.270
読売	31	7	22.60%	100	21	6	14	1	1	13	25	2	.210
阪神	29	5	17.20%	111	32	2	11	4	1	11	28	1	.288
広島	35	6	17.10%	118	27	4	13	4	1	9	29	0	.229
横浜	29	5	17.20%	100	15	2	9	1	0	13	35	1	.150

打率.400以上

打率.100以下

名前	所属	打数	安打	本	打点	打率	名前	所属	打数	安打	本	打点	打率
栗原 健太	(広島)	6	4	1	3	.667	Alex Ramirez	(ヤクルト)	8	0	0	0	.000
赤星 憲広	(阪神)	8	5	0	2	.625	谷繁 元信	(中日)	10	0	0	0	.000
今岡 誠	(阪神)	9	5	1	3	.556	佐伯 貴弘	(横浜)	8	0	0	1	.000
立浪 和義	(中日)	8	4	0	0	.500	城石 憲之	(ヤクルト)	6	0	0	0	.000
仁志 敏久	(読売)	11	5	1	1	.455	種田 仁	(横浜)	6	0	0	0	.000
鈴木 健	(ヤクルト)	9	4	1	1	.444	福留 孝介	(中日)	5	0	0	0	.000
大西 崇之	(中日)	5	2	1	1	.400	古木 克明	(横浜)	5	0	0	0	.000
Greg Larocca	(広島)	10	4	1	2	.400	多村 仁	(横浜)	14	1	0	0	.071
* 5 打数以上							井端 弘和	(中日)	12	1	0	1	.083
							藤本 敦士	(阪神)	11	1	0	0	.091
							緒方 孝市	(広島)	11	1	0	1	.091
							Tyrone Woods	(横浜)	10	1	1	2	.100
							阿部 慎之助	(読売)	10	1	0	0	.100

## <No.22 史上 2 人目の 4 割打者>

史上 2 人目の 4 割打者が誕生した。といっても『シーズン 50 打席以上の選手が対象』の中で、である。過去、『夢の 4 割』にシーズン 50 打席以上の選手の中で達成したのは、1972 年宮川孝雄(広島)ただ一人。1989 年 W. クロマティ(読売)のように規定打席到達時に 4 割に達していた選手もいるが、あくまでシーズン終了時ということでご容赦願いたい。

32 年ぶり史上 2 人目の『4 割』を記録したのは鶴岡一成(横浜)である。入団 9 年目・実働 4 年目の選手である。昨年は 1 軍での成績なく、バリバリの 2 軍クラスの選手。2005 年で満 28 歳、まだまだ成長し、活躍できる年齢であると思える。

しかし、悪いデータがある。実働 5 年以下の選手で『50 打席以上 200 打席未満で打率 .350 以上を記録した選手』は過去 10 人。これを記録した翌年以降、規定打席(打数)に達した選手は 2 人しかおらず、来年の活躍の期待に水をさす感がある。ただ、規定に達した青田昇(阪急)と松本匡史(読売)の 2 人は、タイトルを獲得する活躍をみせており、鶴岡が活躍すればタイトル獲得選手なること間違いなし?といったところか。

[記録は 2004 年末現在]

打率 10 傑【50 打席以上 200 打席未満】

年度	名前	所属	打率	打数	安打
1972	宮川 孝雄	(広島)	.404	52	21
2004	鶴岡 一成	(横浜)	.400	55	22
1984	柳原 隆弘	(近鉄)	.387	62	24
1969	三沢 今朝治	(東映)	.379	103	39
1987	若松 勉	(ヤクルト)	.377	69	26
1952	八浪 知行	(西鉄)	.375	56	21
1969	後原 富	(東映)	.370	54	20
1951	樋笠 一夫	(読売)	.370	46	17
1958	荻 孝雄	(西鉄)	.365	52	19
1979	長谷川 一夫	(西武)	.362	138	50

## <No.23 5度目の規定未満シーズンでの二桁本塁打>

二桁本塁打を19年連続(継続中)で記録している清原和博(読売)。ここ6年で規定打席に到達したのはたったの1回であるが、規定未満の5シーズンすべてで二桁本塁打を記録している。

2004年、史上13人目となる5度目の『規定未満シーズンでの二桁本塁打』を記録。目下3年連続で記録しており、もし、来期規定打席未満で二桁本塁打を放つと、史上6人目の4年連続となる。

規定打席到達でも楽しみはある。実働20年目以上選手の規定打席到達である。実働20年目以上選手の規定打席到達は1991年大島康徳(日本ハム)と門田博光(ダイエー)以来出ておらず、14年ぶり史上史上9人目となる『実働20年目以上選手の規定打席到達』なるかも注目したい。

[記録は2004年末現在]

### 規定未満で二桁本塁打(5回以上)

回数	名前	所属	年度
7	田淵 幸一	(西武)	(1970、1971、1977、1981、1982、1983、1984)
7	大田 卓司	(西武)	(1972、1977、1979、1980、1981、1982、1985)
7	大島 康徳	(中日)	(1973、1974、1976、1980、1985、1986、1987)
7	大豊 泰昭	(阪神)	(1989、1990、1992、1997、1998、1999、2000)
6	片平 晋作	(大洋)	(1976、1978、1984、1985、1986、1987)
6	有田 修三	(読売)	(1978、1980、1982、1983、1984、1988)
6	藤井 康雄	(オリックス)	(1988、1996、1997、1999、2000、2001)
5	伊藤 勲	(南海)	(1964、1968、1975、1976、1979)
5	竹之内 雅史	(阪神)	(1969、1971、1972、1976、1980)
5	福嶋 久晃	(大洋)	(1975、1976、1977、1979、1980)
5	淡口 憲治	(読売)	(1975、1976、1980、1981、1982)
5	小早川 毅彦	(ヤクルト)	(1985、1986、1992、1993、1997)
5	清原 和博	(読売)	(1999、2000、2002、2003、2004)

\* 所属は最後の規定未満二桁本塁打時

### 4年連続規定未満二桁本塁打

年数	期間	名前	所属
4	1964年～1967年	森 徹	(東京)
4	1979年～1982年	大田 卓司	(西武)
4	1981年～1984年	田淵 幸一	(西武)
4	1984年～1987年	片平 晋作	(大洋)
4	1997年～2000年	大豊 泰昭	(阪神)

\* 所属は最後の規定未満二桁本塁打時

## 【増補版(2005/9/24)】

清原和博(読売)は8月13日に膝の治療のため登録抹消。今期中の復帰はなくなった。年間規定打席には77打席足りず、史上9人目の実働20年目選手の規定打席到達はならなかった。本塁打は22本塁打を放ち、自身6度目、4年連続の規定未満シーズンでの二桁本塁打を記録した。

[記録は2005年9月23日現在]

### 4年連続規定未満二桁本塁打

年数	期間	名前	所属
4	1964年～1967年	森 徹	(東京)
4	1979年～1982年	大田 卓司	(西武)
4	1981年～1984年	田淵 幸一	(西武)
4	1984年～1987年	片平 晋作	(大洋)
4	1997年～2000年	大豊 泰昭	(阪神)
4	2002年～2005年	清原 和博	(読売)

\* 所属は最後の規定未満二桁本塁打時

## ＜No.24 規定未満シーズンのみを通算した本塁打数＞

清原和博(読売)が規定未満シーズンで5度の二桁本塁打を打っているのは既述の通りである。その本塁打の内訳は、1999年13本・2000年16本・2002年12本・2003年26本・2004年12本、合計79本である。このように規定未満のシーズンだけを通算した場合、誰が最多本塁打であろうか？

これは藤田啓二氏の掲示板にも書き込みしたことがあるネタで、今年清原が規定未満二桁本塁打を記録したので、再調査を行なった。2004年出場選手での上位3傑は、1位山崎武司(オリックス)(=108本)、2位町田康嗣郎(広島)(=84本)、3位垣内哲也(ロッテ)(=81本)である。清原はそれに続く4位。

100本塁打以上打っている選手は10人。歴代トップは田淵幸一の146本塁打である。

[記録は2004年末現在]

### 規定未満シーズン対象の通算本塁打

名前	所属	本塁打
田淵 幸一	(西武)	146
大島 康德	(日本ハム)	129
大田 卓司	(西武)	128
大豊 泰昭	(中日)	126
有田 修三	(ダイエー)	122
藤井 康雄	(オリックス)	109
淡口 憲治	(近鉄)	108
山崎 武司	(オリックス)	108
伊藤 勲	(南海)	106
片平 晋作	(大洋)	106

## <No.25 ロッテの球団で5年連続3割と4年連続二桁勝利>

1カ月前の日刊スポーツを読むのはちょっと辛かった。1月は仕事が忙しく、HPの更新もだいぶ遅れてしまった。スポーツ新聞もかなり大雑把に目を通すだけに終わった。

福浦和也(ロッテ)が5年連続3割を目指すとか、清水直行(ロッテ)が4年連続二桁勝利を目指すという記事を見つけた。ロッテで『5年連続3割』と『4年連続二桁勝利』は、何人の選手が達成しているのだろう、と思い、調べてみた。

5年連続以上3割を記録したのは、落合博満(=6年連続)とL.リーしかいない。今期、福浦が3割到達(規定以上)となれば、球団では20年ぶりの記録達成選手となる。それにしても、首位打者を12球団でもっとも出している球団にしては意外に少なく感じた。

投手では黒木知宏が近年記録を達成しているので、球団史上では何人目か、くらいにしか感じなかった。元々、投手記録に関しては興味が薄い。近年塗りかえられる記録といえば、リリーバーを軸とした記録しかないからでしょうかね。

[記録は2004年末現在]

### 4年連続以上二桁勝利(ロッテ)

年数	期間	名前
7	1953年～1959年	荒巻 淳
7	1962年～1968年	坂井 勝二
7	1967年～1973年	成田 文男
5	1957年～1961年	小野 正一
5	1985年～1989年	荘 勝雄
5	1997年～2001年	黒木 知宏
4	1964年～1967年	小山 正明
4	1976年～1979年	村田 兆治
4	1980年～1983年	水谷 則博

### 4年連続以上3割(ロッテ)

年数	期間	名前
6	1981年～1986年	落合 博満
5	1977年～1981年	Leron Lee
4	1954年～1957年	山内 和弘
4	1959年～1962年	山内 一弘
4	1960年～1963年	榎本 喜八
4	1970年～1973年	George Altman
4	1978年～1981年	Leon Lee
4	1983年～1986年	Leron Lee
4	2001年～2004年	福浦 和也

## <No.26 打数が増えると高打率は厳しくなる？>

2004年、イチロー(マリナーズ)が大リーグ史上初めてシーズン700打数以上で打率.370以上を記録した。シーズン試合数が違うこともあり、日本では700打数以上は無理な話だ。

近年、日本では試合数が増加傾向にあり、それなりに面白い記録が出てくるだろうと思い、ある程度打数を区切り、その範囲の最高打率と全体の打率を調べてみた。個人打率において、549打数までの最高打率は.350以上であるものの、550打数以上では打率.350以上の選手はいない。ただ、各範囲の全体打率を見てみると打数が増えるにつれて打率が向上している。正直理由はわからない。シーズンでそのくらいまで打数を記録する選手はそれなりの成績を残しているからであろうか。

[記録は2004年末時点]

50打数区切りにおける最高打率選手

対象打数	年度	名前	所属	打率	打数	安打
10～49打数	1985	岡部 明一	(ロッテ)	.583	12	7
50～99打数	1972	宮川 孝雄	(広島)	.404	52	21
100～149打数	1969	三沢 今朝治	(東映)	.379	103	39
150～199打数	1983	高木 由一	(大洋)	.369	195	72
200～249打数	1951	笠原 和夫	(南海)	.366	213	78
250～299打数	1974	George Altman	(ロッテ)	.351	271	95
300～349打数	1951	大下 弘	(東急)	.383	321	123
350～399打数	2000	イチロー	(オリックス)	.387	395	153
400～449打数	1989	Warren Cromartie	(読売)	.378	439	166
450～499打数	1986	Randy Bass	(阪神)	.389	453	176
500～549打数	1994	イチロー	(オリックス)	.385	546	210
550～599打数	2001	小笠原 道大	(日本ハム)	.339	576	195
600打数以上	2002	清水 隆行	(読売)	.314	609	191

50打数区切りの全体打率

対象打数	全体打率	全体打数	全体安打
10～49打数	.170	160791	27279
50～99打数	.200	244915	48894
100～149打数	.225	219972	49492
150～199打数	.233	204742	47670
200～249打数	.240	211759	50854
250～299打数	.243	265457	64590
300～349打数	.251	286348	71766
350～399打数	.263	409507	107764
400～449打数	.273	472033	128910
450～499打数	.283	547890	155107
500～549打数	.287	213460	61233
550～599打数	.294	47466	13935
600打数以上	.297	3067	910

## 【増補版(2005/12/12)】

今期『550打数～599打数』部門において、青木宣親(ヤクルト)が打率.344を記録し、2001年小笠原道大(日本ハム)の記録を5厘更新。『600打数以上』部門においても赤星憲広(阪神)が打率.316で2002年清水隆行(読売)の記録を2厘更新した。

[記録は2005年12月11日現在]

## <No.27 “サイクル”サヨナラヒット>

サヨナラヒットを最も多く放ったのは、野村克也(=19回)である。現役では、清原和博(読売)が18回記録しており、あとわずかのところに迫ってきている。とはいえ清原も2003年、2004年とサヨナラヒットがなく、足踏み状態である。次順位の現役選手を見てみると、立浪和義(中日)らの9回であり、清原がそのまま引退となると、この記録が塗りかえられるのはしばらくなさそうである。

その野村や清原が達成していないのは『サイクルサヨナラヒット』である(名前は私が勝手につけました)。この記録を達成するのにもっとも障壁となるのは『サヨナラ三塁打』である。2004年終了時までサヨナラヒットが生まれたのは3101試合。その内サヨナラ三塁打が生まれたのは56試合しかない。

ただ、現在私が確認できているのは、3100試合までである。手元の資料で1970年のサヨナラ安打試合に誤植があり、後日調べておきたいと思う。三塁打ではないのは確かなのですが…。

さて、話が横にそれましたが、『サイクルサヨナラヒット』を最初に記録したのは小鶴誠(当時急映)。小鶴が1948年8月30日の阪急戦にて達成したのを皮切りに1964年の葛城隆雄までに8人が記録しました。しかしながら、その後40年経過した現在でも9人目は出ていない。

現役選手でリーチをかけているのは17選手。誰が史上9人目となるであろうか？私自身は2005年で実働4年目の後藤光尊(オリックス)に注目している。小鶴以外は実働9年目以上で達成しており、最速の小鶴が実働5年目であった。実働最速記録に期待したい。

[記録は2004年末現在]

### 『サイクルサヨナラヒット』を記録した選手

名前	所属	達成日と対戦相手
小鶴 誠	(急映)	1948年8月30日対阪急戦
古川 清蔵	(阪急)	1953年8月30日対南海戦
安居 玉一	(国鉄)	1954年6月12日対国鉄戦
堀井 数男	(南海)	1954年9月4日対南海戦
飯田 徳治	(南海)	1955年5月20日対阪急戦
蔭山 和夫	(南海)	1958年6月1日対阪急戦
杉山 光平	(阪急)	1963年8月25日対西鉄戦
葛城 隆雄	(中日)	1964年8月16日対中日戦

『サイクルサヨナラヒット』にリーチをかけている現役選手

名前	所属	単打	二塁打	三塁打	本塁打
浅井 樹	(広島)	○	×	○	○
阿部 慎之助	(読売)	○	○	×	○
大島 公一	(楽天)	○	○	×	○
垣内 哲也	(ロッテ)	○	○	×	○
小久保 裕紀	(ダイエー)	○	○	×	○
後藤 光尊	(オリックス)	×	○	○	○
SHINJO	(日本ハム)	○	○	×	○
鈴木 健	(ヤクルト)	○	○	×	○
鈴木 尚典	(横浜)	○	○	×	○
立浪 和義	(中日)	○	○	×	○
谷繁 元信	(中日)	○	○	×	○
初芝 清	(ロッテ)	○	○	×	○
濱中 おさむ	(阪神)	○	×	○	○
桧山 進次郎	(阪神)	○	○	×	○
福浦 和也	(ロッテ)	○	○	×	○
古田 敦也	(ヤクルト)	○	○	×	○
矢野 輝弘	(阪神)	○	×	○	○

<No.28 各カテゴリー別最多サヨナラヒット回数>

誤植のあった1970年のサヨナラヒット試合を調べた。調べた内容は、当年その球団に所属していなかった選手がサヨナラ単打を放った選手として明記してあったので、新聞の縮刷版にて確認をした。結局は所属の誤植と判明しました。

既述の通り、サヨナラヒットの最多記録は野村克也の19回である。野村が最多サヨナラ本塁打(=11本)を記録している選手でもあることは野球ファンであれば多くの方がご存知かと思う。サヨナラ本塁打上位選手については、『オフィシャルベースボールガイド(共同通信社)』や『ベースボール・レコードブック(ベースボールマガジン社)』を見ればすぐわかる身近な記録であるが、サヨナラ単打等についての明記はない。それならば、と思い、単打や二塁打、三塁打について調べてみた。

今回、四死球や犠打、犠飛も確認したが、安打のカテゴリー別のみを掲載した。『サヨナラ四球を何回記録した』というのが、価値があるか、私としては判断しがたかったからである。とはいえ、1937年(秋)に年間2度のサヨナラ四球を記録した伊賀上良平(大阪)や、1971年~1973年にかけて3年連続サヨナラ四球を記録した大塚徹(ヤクルト・南海)についてはそれなりに面白い記録だと感じるの間違いのないところだ。

[記録は2004年末現在]

サヨナラヒット(二桁以上)

サヨナラ単打

サヨナラ二塁打

回数	名前	所属	回数	名前	所属	回数	名前	所属
19	野村 克也	(南海)	10	広瀬 叔功	(南海)	4	青田 昇	(大洋)
18	清原 和博	(読売)	9	鵜飼 勝美	(国鉄)	3	榎本 喜八	(東京)
15	王 貞治	(読売)	8	清原 和博	(読売)	3	小鶴 誠	(広島)
14	長島 茂雄	(読売)	7	川上 哲治	(読売)	3	豊田 泰光	(国鉄)

14	広瀬 叔功	(南海)	7	河野 旭輝	(阪急)	4	西沢 道夫	(中日)
13	豊田 泰光	(サンケイ)	7	有藤 道世	(ロッテ)	3	張本 勲	(読売)
12	飯田 徳治	(国鉄)	6	平山 菊二	(大洋)	<u>サヨナラ三塁打</u>		
12	藤井 弘	(広島)	6	Victor Starffin	(高橋)			
12	大島 康德	(日本ハム)	6	田川 豊	(大映)	回数	名前	所属
12	原 辰徳	(読売)	6	岩本 義行	(東映)	2	岡嶋 博治	(中日)
12	藤井 康雄	(オリックス)	6	大下 弘	(西鉄)	*所属は最後のサヨナラ安打を記録した当年時		
11	川上 哲治	(読売)	6	藤井 弘	(広島)			
11	杉山 悟	(中日)	6	野村 克也	(南海)			
11	青田 昇	(大洋)	6	高田 繁	(読売)			
11	張本 勲	(読売)	6	王 貞治	(読売)			
11	中村 紀洋	(近鉄)	6	衣笠 祥雄	(広島)			
10	西沢 道夫	(中日)	6	佐野 仙好	(阪神)			
10	田淵 幸一	(阪神)	6	大島 康德	(日本ハム)			
10	高木 守道	(中日)	6	真弓 明信	(阪神)			
10	竹之内 雅史	(阪神)	6	飯田 哲也	(ヤクルト)			
10	有藤 道世	(ロッテ)						
10	落合 博満	(中日)						

## <No.29 20勝への敵は屋外球場にあり?>

2年連続15勝を記録した岩隈久志(楽天)。今期はすったもんだの末、入団が決まった楽天にて3年連続15勝を目指す。昨年はアテネ五輪に出場しながらも15勝をしたこともあり、新聞紙面には『20勝を目指す』と本人の目標が掲載されていた。

15勝への成否は、屋外球場での成績が大きく左右されると思われる。というのも昨年屋内球場では11勝1敗、屋外球場では4勝1敗と勝率面で見るといずれも遜色ない成績を残している。しかし、防御率においては屋内球場で2.21、屋外球場では4.58と内容に大きく差が出ている。一昨年においても屋内3.45に対し屋外3.91である。

今期はホーム球場が屋外になっただけではなく、中日&読売以外は屋外がホーム球場であるセントラル・リーグとの交流試合もあり、おそらくシーズンの3分の2以上は屋外かと思われる。

楽天の打線も気になるところだ。岩隈ほどの投手であれば、なかなか相手に先制点を許さず、自軍が先制する試合が多い。実際、昨年21試合の先発のうち自軍が先制したのは実に17回にのぼり、そのうち序盤の3回までに先制したのは14回と、岩隈が投げた試合では早いイニングで先制が出来ていた。ちなみに先制した17試合では負けなしの14勝。楽天打線には岩隈が先発時、先制点を取ってほしいものだ。

『シーズン20勝』への鍵は、屋外球場の克服と味方打線の先制打と言える。

[記録は2004年末現在]

## <No.30 球団別サヨナラヒットベスト 10>

2004年までの12球団における球団別サヨナラヒットベスト10を調べてみた。今後は何球団に対してサヨナラヒットを打ったかを、時間が許せば調べてみたいと思う。交流戦が始まる今年、更新される記録が生まれるかもしれない。

[記録は2004年末現在]

西武		ダイエー		日本ハム		ロッテ		近鉄		オリックス	
名前	回数	名前	回数	名前	回数	名前	回数	名前	回数	名前	回数
清原 和博	11	野村 克也	19	張本 勲	10	有藤 道世	10	中村 紀洋	11	藤井 康雄	12
豊田 泰光	8	広瀬 叔功	14	田中 幸雄	9	初芝 清	8	山本 静雄	6	石嶺 和彦	9
大下 弘	7	岡本 伊三美	7	大杉 勝男	8	堀 幸一	8	土井 正博	6	中田 昌宏	9
中西 太	7	井口 資仁	7	毒島 章一	8	山内 和弘	7	栗橋 茂	6	福良 淳一	9
伊東 勤	7	堀井 数男	6	古屋 英夫	5	葛城 隆雄	6	大石 大二郎	6	谷 佳知	8
竹之内 雅史	6	吉永 幸一郎	6	岩本 義行	4	榎本 喜八	6	鈴木 貴久	5	長池 徳二	8
松井 稼頭央	6	小久保 裕紀	6	大島 康德	4	醍醐 猛夫	5	Tuffy Rhodes	5	Daryl Spencer	7
玉造 陽二	5	蔭山 和夫	5	大宮 龍男	4	前田 益穂	5	北川 公一	4	矢野 清	7
Jim Baumer	5	穴吹 隆洋	5	金子 誠	4	池辺 巖	5	伊勢 孝夫	4	河野 旭輝	6
Tony Roig	5	門田 博光	5	白井 一幸	4	Frank Bolick	5	佐々木 恭介	4	梶本 隆夫	5
大田 卓司	5	城島 健司	5	中島 輝士	4	福浦 和也	5	村上 嵩幸	4	高井 保弘	5
秋山 幸二	5							磯部 公一	4	谷 佳知	5
石毛 宏典	5									Boomer Wells	5
鈴木 健	5									Bobby Marcano	5
中日		ヤクルト		読売		阪神		広島		横浜	
名前	回数	名前	回数	名前	回数	名前	回数	名前	回数	名前	回数
高木 守道	10	鵜飼 勝美	9	王 貞治	15	田淵 幸一	10	藤井 弘	12	Robert Rose	8

杉山 悟	9	若松 勉	9	長島 茂雄	14	池田 祥浩	7	山本 浩二	8	谷繁 元信	8
立浪 和義	9	池山 隆寛	9	原 辰徳	12	岡田 彰布	7	衣笠 祥雄	7	鈴木 尚典	8
西沢 道夫	8	古田 敦也	9	川上 哲治	7	新庄 剛志	7	森永 勝也	6	松原 誠	7
大島 康徳	8	広沢 克己	7	森 昌彦	7	藤村 富美男	6	水谷 実雄	6	長崎 啓二	7
木俣 達彦	8	飯田 哲也	7	国松 彰	7	吉田 義男	6	西田 真二	6	桑田 武	6
落合 博満	8	金田 正一	6	高田 繁	7	三宅 秀史	6	浅井 樹	6	伊藤 勲	6
中 暁生	7	土橋 勝征	6	松井 秀喜	7	藤本 勝巳	6	緒方 孝市	6	田代 富雄	6
岡嶋 博治	5	佐藤 孝夫	5	清原 和博	7	安藤 統夫	6	正田 耕三	5	波留 敏夫	6
伊藤 竜彦	5	箱田 淳	5	黒江 透修	6	川藤 幸三	6	野村 謙二郎	5	引地 信之	5
島谷 金二	5	丸山 完二	5	二岡 智宏	6	佐野 仙好	6			重松 省三	5
谷沢 健一	5	豊田 泰光	5	阿部 慎之助	6	真弓 明信	6			福嶋 久晃	5
大豊 泰昭	5	山下 慶徳	5							進藤 達哉	5
		角 富士夫	5								
		杉浦 享	5								
		Jack Howell	5								